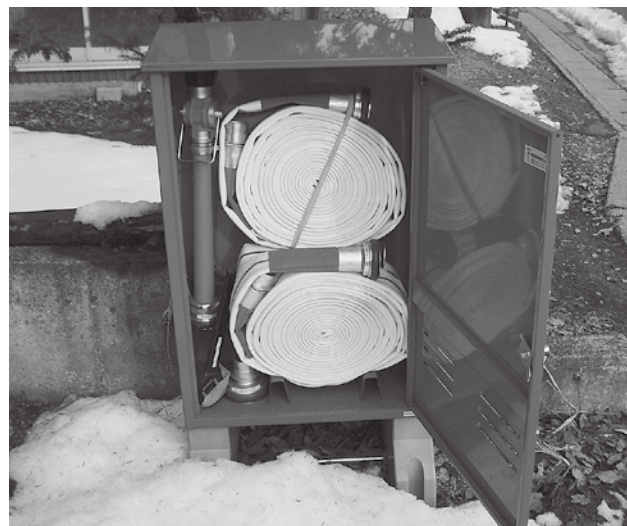


震災から3年経過 防災を考える

初期消火資器材の更新
市では平成24年度より、初期消火資器材（ホース格納箱・ホース・管そう・ノズル・媒介金具・消火栓ハンドル）の更新を行っています。もしもの時にきちんと作動し、使用できるよう、資器材の定期的な点検をお願いします。

●**点検のポイント**
動作、物品の数などを確認してください。

なお、資器材に不具合があった場合は、最寄りの消防署・分署・出張所までご連絡ください。



自主防災組織隊長やリーダーの固定化が有効
自主防災組織の活性化を図り、積極的な活動を行うためには、防災に関する知識や経験の豊富な方々が地域の皆様の先頭に立ち、組織の隊長やリーダーとして、リーダーシップを発揮し、指導や活動が行われることが非常に重要で効果的であるといえます。

そのため、自主防災組織の隊長またはリーダーには、複数年間固定してご活躍いただける方を選出されることを勧められています。

自主防災組織の組織力強化に向けて

各地域の実情にあわせた組織化
市内には、複数の町内（班）が1つのブロックとなり、互いの安全を確認しあうことで組織力を強化している地域や、世帯数が少なく高齢化している地区などでは、各組織を1つのブロックとし、そのブロックをまとめブロック長を選任して組織力を高めている地域もあります。

万が一被災した場合に、地域住民の命や財産を守るため、地域に住む人たちは、大



自主防災組織の結成式の様子（一之宮地域）

きな力になります。
日頃から、自主防災組織の組織力強化を図り、「いざい」という時のために備えておきましょう。

お気軽にご相談ください



高山消防署防災課
課長 玉舎久幸

市内全町内会で自主防災組織が結成されて6年が経ちます。これからも「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という皆様の思いにお応えするため、市ではさまざまな活動を支援します。

「今度、訓練をやってみたいけど、どんな方法がいいのか」「どんな役割分担があって、どんな行動が効果的なのか」など、ご不明な点がございましたら、最寄りの消防署・分署・出張所までお気軽にお問い合わせください。全力でサポートします。

問合せ | 高山消防署防災課 ☎32-0119

あらためて考える 自主防災組織の大切さ 東日本大震災から3年経過

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から3年が経ちました。この大震災では、地震や津波により1万5千人を超える多くの尊い命が失われ、26万7千人の方が今なお避難生活を余儀なくされています。

さて、この大震災では多くの自主防災組織が、避難誘導や安否確認、避難所運営などさまざまな活動を行い、大きな役割を果たしました。南海トラフ巨大地震や内陸直下型地震など、この地域においても災害の発生が懸念されるため、地域の防災力を高めることは重要です。地域が丸となって災害に備え、助け合う「自主防災組織」の活動をあらためて考えてみませんか。



初期消火訓練や防災講話など、消防職員が地域の自主防災組織の活動をサポートします

自主防災組織への活動支援

市では、市民の皆様の防災意識の向上や地域の防災力強化を目的に、自主防災組織の活動を支援しています。

主な訓練の内容

■ 初期消火訓練

消火栓や可搬ポンプを使った消火訓練

■ 倒壊家屋からの救出救助訓練

ジャッキやスコップなど身の回りにある器材を使った救出訓練

■ 避難訓練

発災時を想定して、実際に地域の避難場所までの避難ルートを確認する訓練

■ 要援護者の避難・介助・搬送訓練

地域内に居住している高齢者や障がい者の避難や身近な物を利用して簡易担架を作り負傷者を避難する訓練

■ 災害图上訓練

各地域の地図を用いて危険箇所や避難経路を確認する訓練

■ 炊き出し訓練

避難所で使用する釜や飯ごう、大なべを使用した炊き出し方法を学ぶ訓練

その他、救命講習や防災ビデオの視聴などさまざまな支援を行います。